

教育・臨床心理専攻

1. 専修科目、授業科目、単位数、担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は、平成 29 年度の学生募集担当者を表します。

種目	授業科目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 必 修 科 目	教育人間学特講Ⅰ	2	教授 ○勝山 吉章	特講Ⅰ・Ⅱは、院生のニーズに応じて講義内容を組み立てることを原則とする。基本的には西洋教育史と日本教育史をベースにしながら、「子ども」、「子育て」、「家族」、「学校」、「教師」などをテーマにしながら教育の歴史を振り返る。演習Ⅰ・Ⅱでは、特講で学んだことを基礎に、修士論文の完成を目指す。
	教育人間学特講Ⅱ	2		
	教育人間学演習Ⅰ	2		
	教育人間学演習Ⅱ	2		
	教育人間学特講Ⅲ	2	准教授 博士(教育学) ○植上 一希	時代状況に対応して、青年期教育論の枠組みや方法論は変化している。 その変化を各自が理解し、それぞれが対象とする研究テーマに対応する理論枠組みや方法論を作っていく基礎的な観点を獲得することを目的としている。 そのために、ここでは現代の青年期教育研究の理論的枠組み、方法論、到達点などについて整理していく。具体的には青年期教育論の起点としての宮原誠一の検討から始まり、普通教育論と職業教育論のジレンマ、企業社会論、消費社会論、高等教育論との関わりで積み重ねられてきた日本の青年期教育論についてその特徴について整理していく。 こうして得られた青年期教育論の枠組み・方法論をもとに各自が工夫し上げた枠組みや方法について、論文執筆とその検討を通して実践的に練り上げていく。
	教育人間学特講Ⅳ	2		
	教育人間学演習Ⅲ	2		
	教育人間学演習Ⅳ	2		
	教育システム論特講Ⅰ	2	教授 博士(教育学) ○高妻紳二郎	教育システム改革の動向の背景や見通しをさぐるために内外の文献を講読し、教育システム改革に関する理論的知識と改革プロセスが依拠する具体的理念及び展開過程について検討する。
	教育システム論特講Ⅱ	2		
	教育システム論演習Ⅰ	2		
	教育システム論演習Ⅱ	2		
	教育システム論特講Ⅲ	2	教授 博士(教育学) ○藤田由美子	特講では、学校教育と社会のかかわりについて、主として教育社会学の諸文献を手がかりに考察を深める。たとえば、「学力」「身体形成」「子どもの貧困」「児童虐待」「ジェンダー・セクシュアリティ」などの諸テーマについて、教育社会学的研究における議論を整理するとともに、具体的事例の分析・考察を行う。あわせて、教育社会学の研究方法論について理解を深める。 演習では、特講で学習した教育社会学の研究動向を踏まえつつ、自らの生活経験に根ざした問題意識を「研究問題」として具体化し、修士論文の完成を目指す。
	教育システム論特講Ⅳ	2		
	教育システム論演習Ⅲ	2		
	教育システム論演習Ⅳ	2		
	教育システム論特講Ⅴ	2	准教授 博士(教育学) ○佐藤 仁	教育システム論特講Ⅴ・Ⅵでは、具体的な教育政策を事例に取り上げ、その政策過程分析を行う。特に、国際的な潮流がどのように影響を及ぼしているのかという観点を設定する。教育システム論演習Ⅴ・Ⅵでは、個人の修士論文のテーマに即しながら、それに関連する政策の分析を行っていく。
	教育システム論特講Ⅵ	2		
教育システム論演習Ⅴ	2			
教育システム論演習Ⅵ	2			
臨 床 心 理	臨床心理学特講Ⅰ	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子	臨床心理学特講Ⅰでは、専門職業人としての臨床心理士の職能と社会性について、文献講読を通して理解を深める。具体的には、職業倫理、諸ガイドライン・諸規準、法的責任、臨床心理専門家としての発達段階と訓練課程の内容、記録のとり方、他職種との協働の仕方、社会の中での臨床心理士の立場・役割、臨床心理士をめぐる社会的状況と課題などについて展開する。 臨床心理面接演習Ⅰでは、臨床心理面接法の基本的なことについて幅広く展開する。具体的には、受講生がそれぞれ関わってきた臨床現場(体験学習含む)での話題をもとに、初回面接までの運び方、初回面接の仕方、契約の仕方、クライアントとの関係づくり、守秘義務、インフォームド・コンセントの実施方法、面接記録の書き方などについて理解を深める。 本演習では、各自の研究テーマを具体化し、修士論文作成に向けて、個別・集団指導を行っていく。個々人の研究計画構想をもとに、発表とディスカッションを繰り返しながら、演習を進めていく。(1) 先行研究の展望の上に、自分の研究テーマを位置づけること、(2) 研究目的に応じた研究デザイン・方法を選択し、実施すること、(3) 研究の土台となる研究倫理について、確実におさえること、(4) 研究の実現可能性について、十二分に検討すること、(5) 論文執筆の作法について、学ぶこと、について展開する。本演習には、毎年、臨床心理学に関連する様々な研究テーマを持った院生が集まっている。互いに支え・高めあえる演習にしていきたいと思います。
	臨床心理面接演習Ⅰ	2		
	臨床心理学特別演習Ⅰ	2		

選 択 必 修 科 目	臨 床 心 理 学	臨床心理学特別演習Ⅱ	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子	本演習では、修士論文完成に向けて、臨床心理学特別演習Ⅰでの研究を継続し、更に展開していく。具体的には、修士論文完成を目標に、研究計画の実施、分析、論文執筆、発表会・審査会の準備を行いながら、研究の総仕上げを行っていく。本演習では、これまで、教育、医療、福祉など幅広い領域のテーマで、論文が執筆されてきた。修士論文作成への誠実な取り組みは、心理専門職としての仕事への取組みと繋がると思います。完成まで、しっかりと取組みましょう。
		臨床心理学特講Ⅱ	2		【担当者未定科目】
		臨床心理面接演習Ⅱ	2		
		臨床心理学研究法特講	2	教授 ○田村 隆一	フォーカシング指向心理療法、フォーカシング技法、体験過程理論を中心として、ヒューマニスティックな心理療法とその理論を研究する。他の治療的オリエンテーションとの統合もテーマとなる。 学校教育の中で生じている児童生徒の諸問題を臨床心理学的観点から考察し、臨床心理士が果たす役割を論じる。 臨床心理学研究法特講では、臨床心理学の研究の基盤となる方法論を論じるとともに、各研究技法の詳細を実際の研究に即して検討する。質的研究、量的研究の実務について、データの分析と解釈を行いながら理解することをめざす。 臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱでは、各受講者の修士論文作成に関わる基本事項の発表・討議と心理臨床に関連する内容の協議で授業を展開する。 臨床心理学領域での査定のうち、主に質問紙法などの自記型の検査について学ぶ。テスト理論と心理テスト作成に関する技術を身につけるため、質問項目の作成、項目分析、信頼性・妥当性の検討を行う。また、代表的な心理テストの実施方法とその活用について検討する。
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2		
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2		
		臨床心理査定演習Ⅱ	2		
		臨床心理査定演習Ⅰ	2	教授 医学博士 ○血田 洋子	臨床心理査定とは、心理テストを用いて心の問題をもつクライアントの理解を深めていくものである。 演習Ⅰでは、ロールシャッハ・テストを中心に投影法を習得し、事例を通して解釈のスキルを高める。
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2		この特別演習Ⅰでは、修士論文作成にあたって次のようなことに取り組む。 ① 研究テーマに関する論文の抄読と討論 ② 「研究計画」の作成
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2		この特別演習Ⅱでは、修士論文作成にあたって次のようなことに取り組む。 ① 研究の進め方についての検討 ② データの分析方法の検討 ③ 結果の整理と考察 ④ 論文の作成
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2	准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和	担当教員による指導の下、サイエンティスト・プラクティショナーとしての専門的スキルを身につけるのがねらいである。日常の臨床経験や先行研究、研究倫理を踏まえながら、研究テーマを選定し、研究計画を具体化し、調査や実験を進め、その成果をまとめて、学会発表や論文文化を行う。また、臨床経験だけではなく、実証研究や客観的指標を踏まえながら、臨床心理学的面接法、査定法、地域援助法のスキル向上に努める。 受講の際には、基礎的な英語力(TOEIC600点以上)と心理学の知識(心理学検定1級以上)、統計学の知識が求められる。
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2		
		臨床心理査定演習Ⅲ	2	教授 ○松永 邦裕	臨床心理査定演習Ⅲでは、実際に実習で担当した事例の心理検査や事例の概要をもとに、どのようにクライアントの問題を理解し、援助したらよいかについて演習を通して検討する。 臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱでは、各受講者の修士論文作成に関わる基本事項及び心理臨床に関連する内容の発表・討論を通して、各自の研究テーマをより確かなものにする。
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2		
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2		
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2	教授 ○徳永 豊	各受講者の修士論文作成に関わる基本事項の発表・討議と心理臨床に関連する内容の協議で授業を展開する。研究デザインを確認し、データの収集、分析、質的データの処理について報告し協議する。
臨床心理学特別演習Ⅱ	2	臨床心理学特別演習Ⅰでの検討を基に、各受講者の修士論文作成に関わる基本的な事項を協議する。＜1. 課題意識と問題設定＞と＜2. 問題設定と考察のつながり＞について、指導教員の助言を手がかりに、受講者同士で意見交換を行う。			

種目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 科 目	教科・授業論特講	2	教授 博士(教育学) 大久保正廣	戦後学校教育における教育実践の歴史的研究。特に教育方法・教育思想史に関連する研究が中心であるが、比較教育的な視点も取り入れている。
	生徒指導論特講	2		
	学校教育論特講	2	准教授 篠崎 省三	道徳教育および授業に関する理論の言説分析
	道徳教育論特講	2		
	教育調査・統計論特講	2	教授 博士(教育学) ○藤田由美子	修士論文作成に不可欠である教育調査・統計の基礎を身につけることを目指す。問いから仮説を検証しデータ収集を行うための基本的な考えについて学んだ後、統計ソフトを活用した演習を通して、教育調査・統計の基礎を具体的に・実践的に学ぶ。あわせて、質的調査研究についても、具体的な事例および演習によって学ぶ。
	家庭教育論特講	2		家庭教育に関する歴史社会学的研究、および家庭と教育の現代的諸問題に関する教育社会学的研究の検討を通して、家庭教育の本質および現代的課題について、考察を行う。
	地域教育論特講	2		地域づくりの担い手を育む活動が、多様な人と組織を通じて生まれてきています。それらは、社会教育、学校と地域の連携、環境教育、NPO、住民団体、自治体行政など様々です。この講義では、地域の生産者、住民、青年、子どもたちが地域の過去と現在と未来をみすえて主体的に地域の活動に取り組む活動を「地域学習」という概念でとらえ、学習のプロセスと方法について教育的に読み解いていきます。現場見学やゲストスピーカーの招聘も予定してあります。理論学習をふまえて、実際の地域づくりの現場における学習のプロセスと方法を読み解くことができるようになることを目標とします。
	生涯学習論特講	2	准教授 添田 祥史	この講義では、生涯学習社会を実現していくために必要な理論、思想、計画、実践について学んでいきます。生涯学習社会とは、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会」のことをさします(教育基本法第3条)。講義では、国際的な学習権論に関する議論、成人の学習論理論や実践分析、学習者を支援する組織・施設・事業、計画などについて検討します。また、理解を深めるために、ゲストスピーカーによる講話や現場見学も予定してあります。おとなの学びを支える最大の学習資源は、「経験」です。お互いの経験や人生に学びあいながら、対話的に講義を進めていければと思います。
	キャリア発達論特講	2		【平成28年度休講】
	国際比較教育論特講Ⅰ	2	准教授 博士(教育学) ○佐藤 仁	グローバル化した現代において、一国の教育政策を理解するためには、ドメスティックな文脈だけでなく、国際的・グローバルの潮流を理解しなければならない。そうした潮流が、どう国内の文脈と統合されながら政策として表出しているのかを探ることが、比較教育学において重要なテーマとなっている。本特講では、教育政策のグローバルな潮流を理解することを目的に主に英語文献を講読し、それが日本の教育政策の動向とどう関係しているのかを検討していく。
	国際比較教育論特講Ⅱ	2	講師 博士(教育学) 伊藤亜希子	本特講では、とりわけEU拡大や域内移動の自由によって多様化した社会における教育課題として移民や難民を取り巻く教育について取り上げ、ヨーロッパ諸国がこれに如何に取り組もうとしているか、異文化間教育やシティズンシップ教育の文脈から理解を深める。そして、日本社会の多文化化に伴う教育課題を念頭に置き、それに対し、どのような知見を導き出せるのか、英語及び日本語の文献講読を通して比較考察を行う。
	異文化間教育論特講	2		本特講では、日本において異文化間教育に関する議論がどのように発展し、学校や地域における共生の課題に取り組んでいるのか理解を深め、その意義を考察していく。具体的には、異文化間教育で研究課題となる適応や言語教育、異文化理解に関する論文を講読し、検討していく。また、日本における異文化間教育を検討していく際の参考として、ヨーロッパにおける異文化間教育についても事例として取り上げる。
青年期教育論特講	2	准教授 博士(教育学) ○植上 一希	現代進められている高等教育改革の政策動向を丁寧に把握することは、青年期教育の今後のあり方を構想する上で重要な課題となる。この課題に対して、ここでは、とくに「新たな高等教育機関の創設」について注目し、その政策議論の検討を中心に研究を進めていく。	

選 択 科 目	臨床教育論特講	2	教授 ○松永 邦裕	臨床教育論特講では、子どもの発達(そだち)と臨床心理学の基礎を概観し、「不登校」「いじめ」「発達障害と特別支援教育」「児童虐待」「少年非行」などの教育現場に密着した最新の問題について、演習を通して、理解を深める。
	教育心理論特講	2		教育心理論特講では、臨床心理学の人格理論や基礎理論の概観し、教育現場において、どのように臨床心理学を役立たせることができるかについて、演習を通して検討する。
	心理療法特講Ⅰ	2	非常勤講師 木谷 秀勝	【平成28年度開講】
	心理療法特講Ⅱ	2	准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和	認知行動理論および認知行動療法の研究。基礎的な傾聴技法や研究技法を踏まえて、実践的な認知行動アプローチを探索する。
	精神医学特講	2	非常勤講師 古井 博明	【平成28年度開講】
	心身医学特講	2		
	グループ・アプローチ特講	2	准教授 本山 智敬	エンカウンター・グループおよびパーソンセンタード・アプローチの考え方を中心に、成長促進的な風土づくりや個を尊重したファシリテーション等、グループ・アプローチの基本的視点について理解を深める。また、グループワークを通じた体験学習やグループ事例の討議を交えながら、集団が持つ援助の可能性について実践的に検討する。
	家族心理学特講	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子	家族心理学特講では、家族に焦点をあて、家族の現象を広い視野から俯瞰する。家族に関する様々な現象について、家族とは何か、家族の人生周期、家族発達の特徴、家族に対する心理的アプローチなどの観点から文献講読を通して展開する。家族に関する様々な現象の内実やその背景を学びながら、理解を深めていただきたい。
	臨床発達心理学特講	2	教授 ○徳永 豊	乳幼児の発達研究を踏まえて、乳幼児が自己や他者、対象物の理解を形成する過程を検討し、その臨床的な意義について考える。M.レゲアスティの著書を手がかりに、受講者でレポートをまとめ、報告し協議する。
	臨床パーソナリティー論特講	2	非常勤講師 吉良 安之	【平成28年度開講】
	学校臨床心理学特講	2	准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和	チーム学校の考えに基づき、学校現場で必要とされるスクールカウンセリング(SC)のあり方について検討を加える。SCが学校教育で必要とされた社会的背景や、学校現場で求められる心理臨床業務、カウンセリングやコンサルテーションの効果的な技法について、講義や発表、事例検討、ロールプレイを通じて学ぶ。
	臨床心理関連行政論	2	非常勤講師 高橋 幸市	【平成28年度開講】
	臨床心理実習Ⅰ	2	教授 ○田村 隆一 教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子	カウンセリング及び心理療法の臨床活動に関する研究。 臨床心理面接の実務において生じる諸問題について論じ、事例の理解とケースマネジメントについて研究を行う。
	臨床心理実習Ⅱ	2	教授 ○徳永 豊 [担当者2名の内、もう1名未定]	臨床心理面接における面接者の実務と役割、技法、倫理的問題等について、実践事例を通して研究するとともに、心理臨床家アイデンティティ確立に向けて受講者の相互啓発を図る。
	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	教授 ○松永 邦裕 准教授 本山 智敬	基本的な相談施設運営の活動に参加し、具体的な心理査定や心理面接の実習を行う。さらに、自殺の危険性や医学的治療の必要性の査定、危機介入、問題行動への対応、臨床場面で生じる転移・逆転移の取り扱い、家族、学級集団、セルフ・ヘルプ・グループなどの集団へのアプローチ、コンサルテーションなどについても、基本的な技能を習得するための実習を行う。
	臨床心理基礎実習Ⅱ	2	教授 ○松永 邦裕 教授 ○田村 隆一	
臨床心理地域援助論特講	2	教授 医学博士 ○皿田 洋子 教授 ○松永 邦裕	臨床心理的地域援助に関する理論を学び、さらに具体的な援助技法を習得した後、実際の現場においてそれらを活用して実習を行う。地域での臨床活動を円滑にすすめる技量を高める。	

## 2. 履 修 方 法

- ① 標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計32単位以上を修得しなければならない。
- ② 学生は、「教育」及び「臨床心理」の2分野のうちから一つの分野を選定する。
- ③ 学生は、選定した分野の選択必修科目の担当者のうち1人を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けなければならない。
- ④ 選定した分野の選択必修科目のうちから特講4単位以上及び演習4単位以上、選択科目16単位以上を履修しなければならない。

## 3. 開 講 方 法

教育・臨床心理専攻は、専ら夜間に授業を行います。

授業時間 1限 18:00～19:30

2限 19:40～21:10

※非常勤講師担当の授業科目については集中的な講義として開講することもあります。

※カリキュラム変更が行われる場合がありますので御承知おきください。